

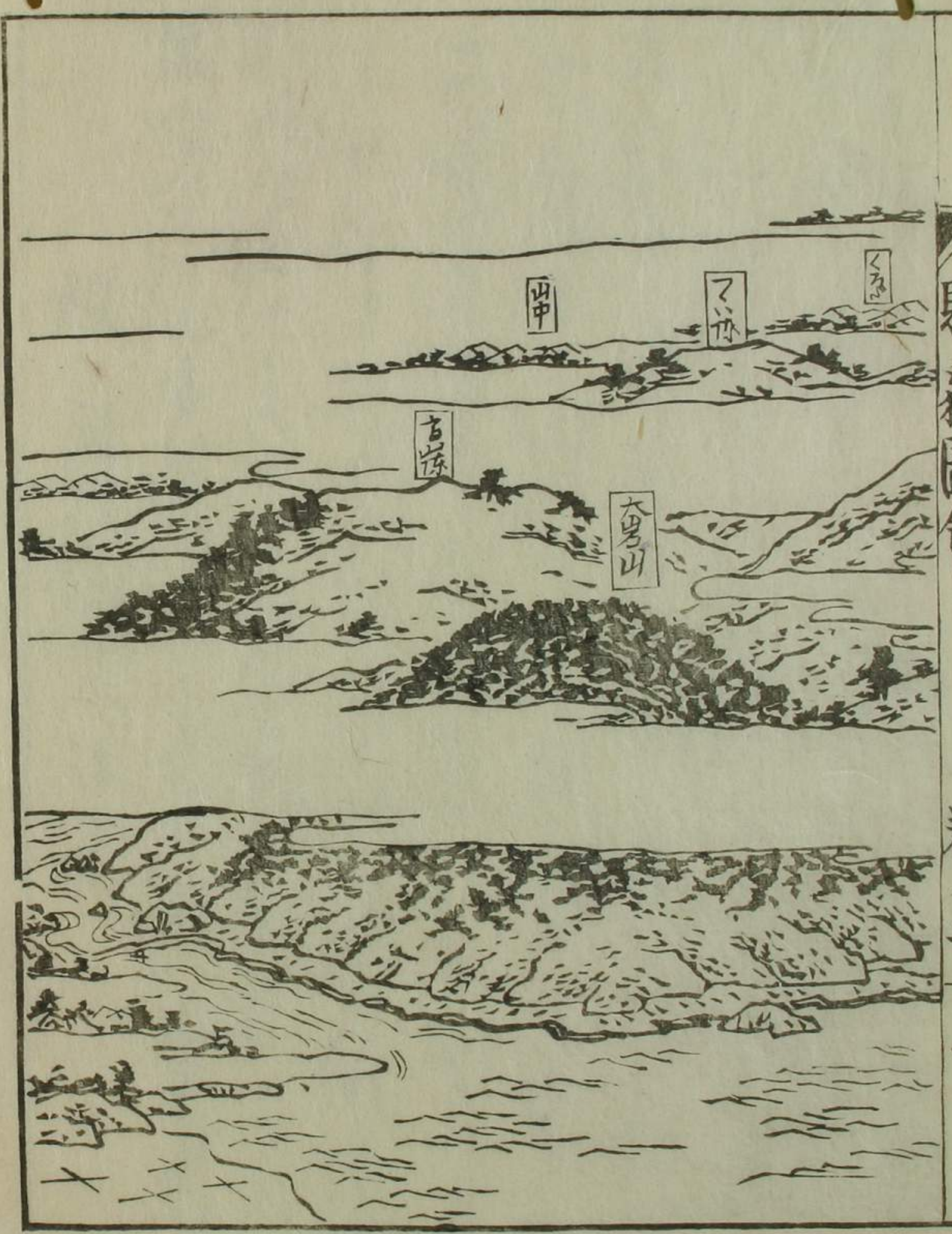
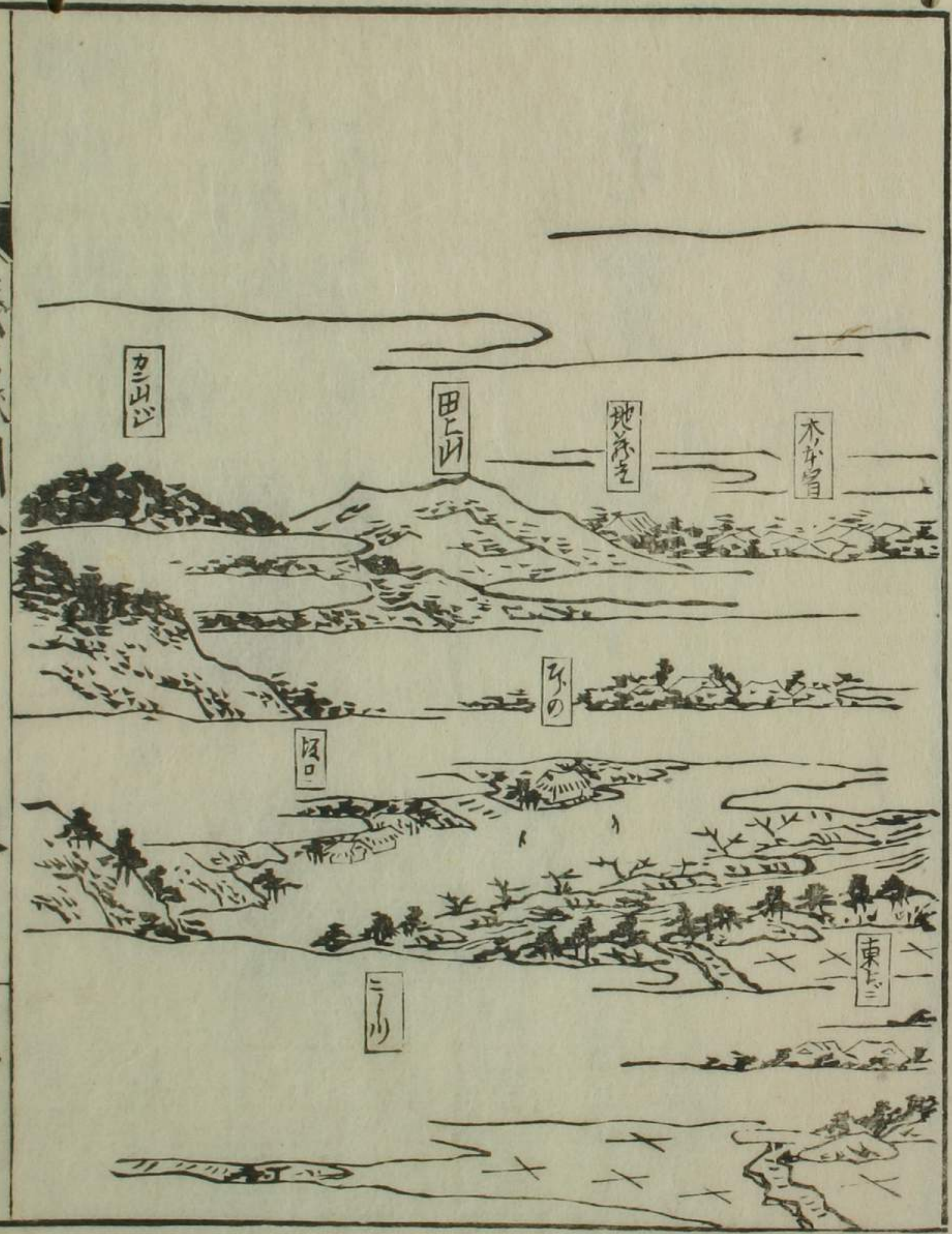


賤嶽戰場畵會 二

ル 4
3788
2



東海道



東海道

卷八

北湖 賤ヶ嶽圖會卷之二

目錄

馬留杜

勝家獵

半之浦

釈西阿之傳

湖止

行市山

見先

信盛討死

越前境

首塚

梁田陳

大谷川

梁ヶ瀬陳

越川

北湖 賤ヶ嶽圖會卷之二

馬留杜

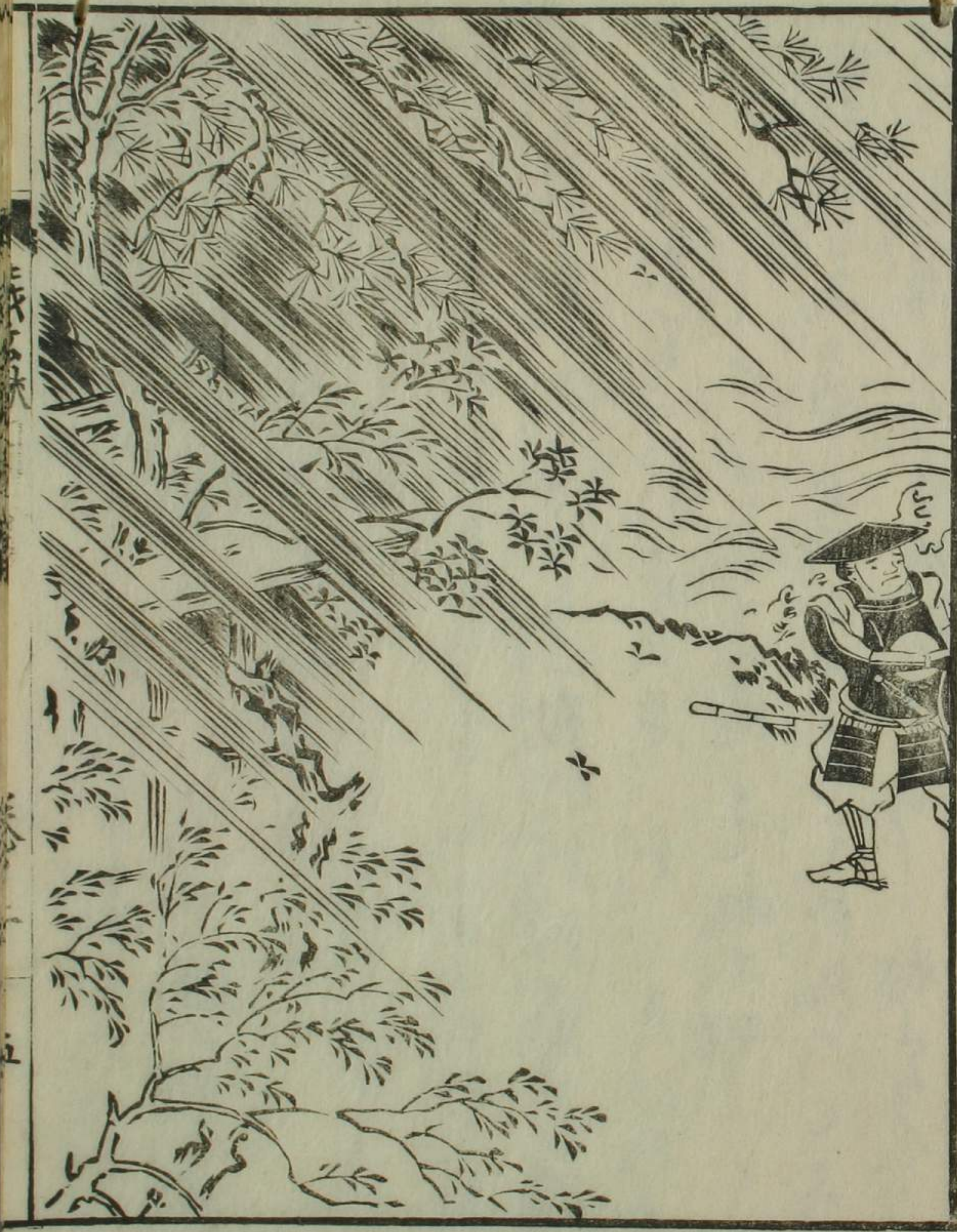
湖をひとりの藪のり 赤い道あつて花表の
礎并は頭の礎もま近き人おし車あり
しせむわの五十石れ藪ふして松栢枝は
交解急流して藪中に白盃ふえおとせゆる松
もつり南指ふ多の若はのど誰林中より
入るのあくは首ハ馬路天王の宮居いぬ
とぞ云傳ふ事 ありあま存田れ神を懐も
馬路天王の号ゆー 午辰天王あるなり

午の字ハオニ支小てハク句と呼ゆ一訛く馬匹
 とハ云々わー一歳の花も馬匹の歳と云ー
 たりめ尚云訛く一苗の歳と云ーぬー
 けりある也ー一絶絶せりーきりあるー
 ホー一詠法合せ飯の宮長小ーも造管
 せよぐーとせ思ひはる

勝家権

去人借く一覽一くまはれぬ田のまはれ田
 近作勝家ぬまの景向に権けりよ馬のま
 歳と云云せんといふ進以随去りまの作 系打

下馬志路ひとんとソよ一近作ハそと傾け思
 敷一してソよ是邪神ぬー社路一神氣あ
 つく津清のまな一乞と近治一民の
 愁と除ぐーとら波振り矢張ち望て社路
 いふよ一動以取こま受管あつて静る
 身とともな以鳴動せは急社路とてばてハ六
 尺斗此蟻らよ死にありて路と斬一矢か
 とらに湖中に捨わー一幸減れて伝長公
 よんせしむるとるやこれより馬苗の愁あ
 社路と史かあー一たう花のまゆる馬苗



卷之二 四

の處とやいふも一ゆほちもあられも
播磨のくまのたけつらふんりおこも膝たけらよ
備前ふいしゆあもまばは流流らるー

半之浦

坂はれを中をふもよかつて凡山中たみ下を
うろく半の浦あり一戦の別れ果がこれ
軍卒數百に凡は是ハ利と夫しは
めうふいしせらきんとの備よて船おわく
將兵も又道りせの山中下く伏兵乃こころ
あり全備ちん子及ありあうー將らる人

をこぼしははぬまどさ事然一源延尉
行報はが送船の海とハるにのちがひわり
りまを足あらん我ハ将兵の斗果と感

新あはれ傳

半の浦は位あり備師しを果ぬらの子
みすをといはるるしけあを流より登の
うぞおのますーいあうは稱名石を唱
まの乳ぶさばあむあひの事ー
月ふすー目ふすーてハタの春よるを
の流と兒かこころば村をホ戯入り末

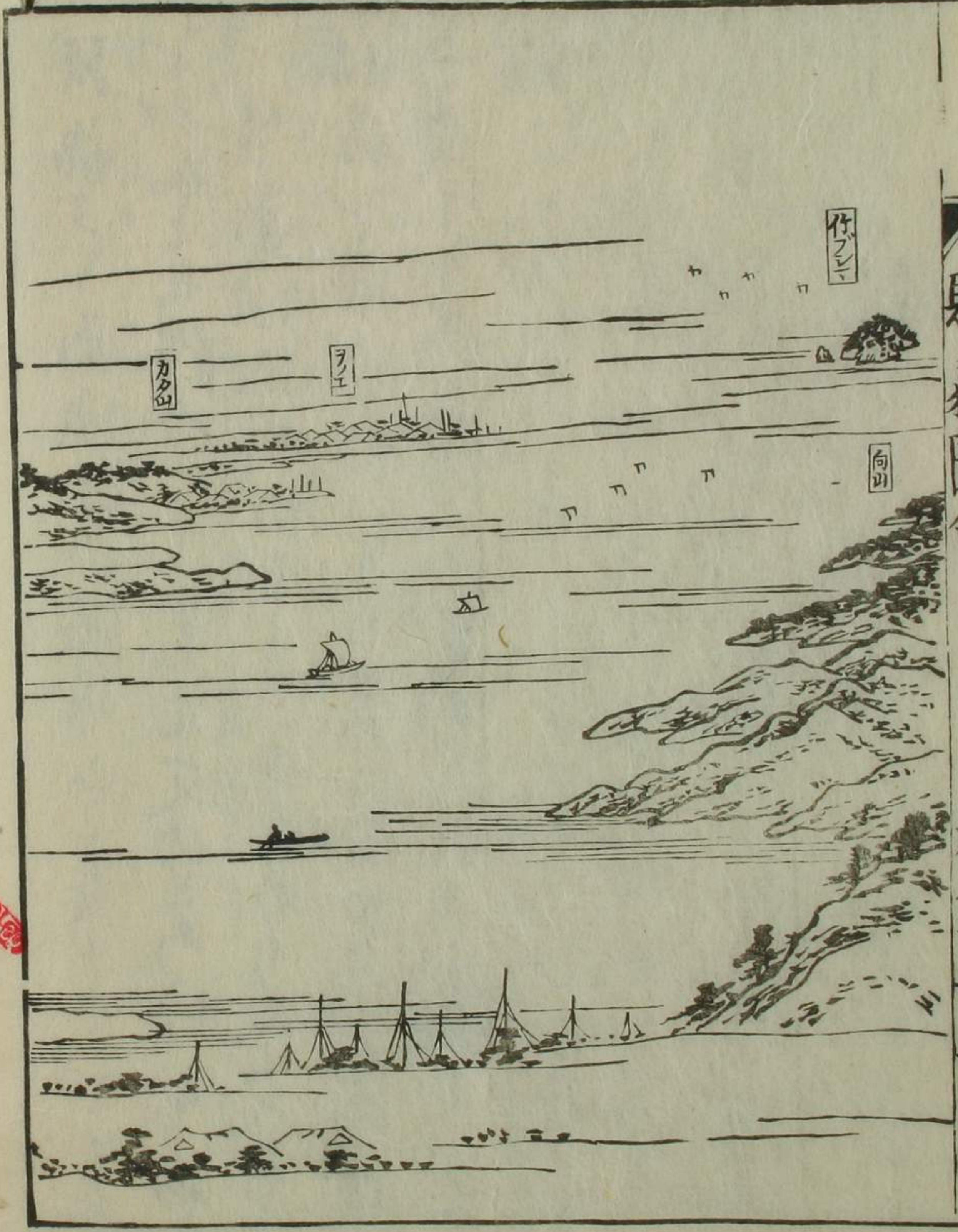
うふり自道州と解く教化の事あり
 うそて出家させしむ経論と字に一紙書
 て十と費く乃々あり友偽とせん也所道
 以教とつねとして左偽とせんは教化の
 事くまどと辨はまの徳國炮覽して
 矣切子縁法流小車流ありひたふ々に
 國とそ徳とめ方入り一身舎車一葉大
 麦部合とる後以西流載して行て教化
 せらるる事ともいふははるる偽入り
 流子微弱ありは記と信せぬわが徳行の事者

誠悔く南陽紀の塩津ふは終りせしむ死
 と不知と云傳ふよし是元文のころの人ゆゑ也
 予明南陽紀列の在り一書見ありふら入る
 録名と唱合言時いそらまめ二合也やん而の
 ふよ入る録名はる小巖を乃はも氣深しそ
 稱よ書表はつありふるよ九条はけいと纏ひ
 行ひ流はるやその法名と徳本とつはし
 いはるは田州塩津のふりおるはとなん
 西河が再來ありんり

湖止

徳法扶園會

卷ノ二



中北浦と云はれ其より江湖の大如く交那
 天竺より其へしと云々其より三玉を及の唐津
 ぬめら湖中八つの系を浦くしの侍系七津ハ
 謂大津系津塩津海津今津粟津津
 かと云々の凡系わく湖中乃三浦ハ其生
 鴨沖の鳥牛鴨わど貴卿の詠ミを及の海
 とよふ代りて撰集もこの湖の奇わく
 支那一國の西湖にハ勝る一ノ事故わたりて
 其致よぬせのちうとこゝの明朝雜史ハ
 開以西湖北中三十八里長サ一百里とあり

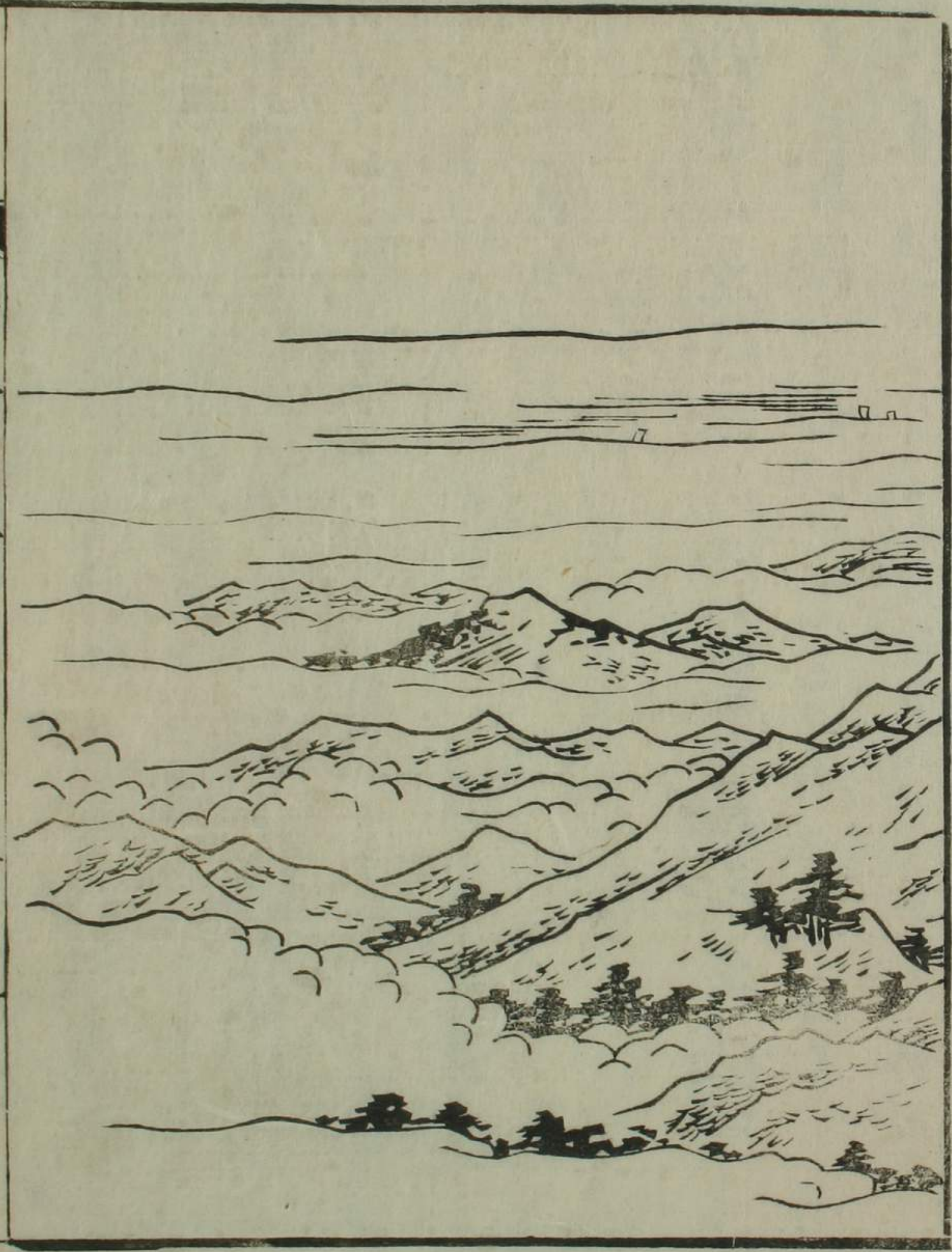
倭北湖ハ中九里長十九里余 唐ノ里數にありきハ
 中季ノ里長百五里
 然バわい糸勝あり

行市山

一我のわい糸田が親族依久乃云番路信盛南
 山に陳以極廉より其と云ハ松杯の為とありて
 山及びけりしとすさきば平場あり足外曲海
 ぬつし一岫ありば定よ罪無しと云ども
 了がし一の記と云えく切岸をすさき外
 形俾のわい糸わきば令外曲海わらんま外曲
 道又えその左右に大山ありて交本をぬつしと云

取らり上ハ小笠原にして上方にかゝり
 信盛が軍械とて以てあるに外曲輪破て
 卒隊も入り入りも容易に登りあがり
 べし一昨も布はと投がらば足まづりり
 たりあづり一折あより後炮放り旗亦
 下りあづり一折あより後炮放り旗亦
 救我軍も下るとよ今功がにやわく仕換は
 備りありありとよ今功がにやわく仕換は
 此れやうの幕も池あり目を町もい
 ありとよ今功がにやわく仕換は

存ハ去人もふたつあつて用を
 中水りんよハ志うとつ
 池りんよハ志うとつ
 あつて越あのかつとつ
 一かつとつあつて人教ある
 教あつて強敵ありともあつて
 づらひとつあつて信盛あつて
 かつとつあつて破りハ
 智のつとつあつて信盛あつて
 天運よけあつて羽は木が
 影白湖



射野指圖會

卷八
二
十

矢野の葬らんまのたとかりひりまば今の
 世の人くも思ふ事もあざ人もやあはは
 知りおのきもやあはと仰ひ續き施にの
 ひとあねどもせり用らとん空は海邊
 唯古の戦もぬの人くもとて天運り
 する所あづー

見え

仍市ふは渡り我れあはまよぬえき新編
 こそ古名あづるぬにええとつふ湖中
 佐景ハけ所しとる上とるづー里人よふり

薬中とて坊て京師にぶたのものも有とや

信盛討死

山の君と里山とふ私軍に討死せしあかり
 ろきととえことハ難知あきをも場所の作と
 なる小佐佐木芝原ありぬのあきんく
 其家系は親末あづばてふいの智とも建る
 へさふそ事もあくあかりしとらるる
 向ち大岩ふりハ中川の戦死せし
 一に岩に巖くさる境あつてまると
 影白の里人入りとるる掃除と

くら〜あら大なるのりふ記佐盛れ
死せしふといたり勝家

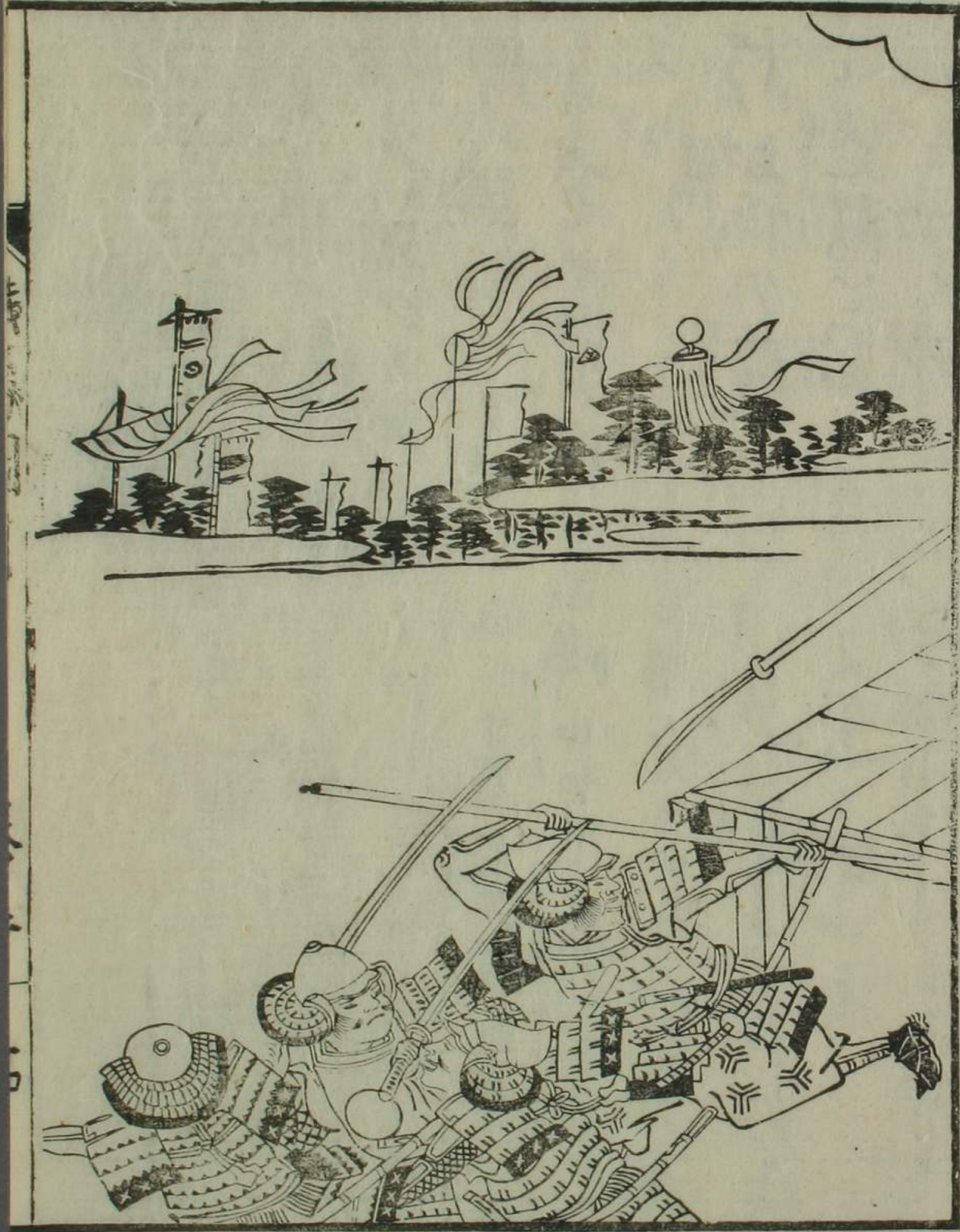
越前境

近江國富山の岩と越前國知念の岩と
て境と云ふ木の上の峰と並び付る別
れは市と云ふ境よりく山海も一目
見ゆすさかしの坂めぐるせは湖中有遠
り伊吹のふふくく佳景と云ふ
に郡近所ありまどくは郡鄙格谷妓
娼の久艶婢媚方を眺む一掃と云ふ

けふのあふくせばもる山谷入り
出越とらんり惜り郡里谷を二里
余仰よをぶらり車二十余里志りも
らんそあまははいんもすり車か
の羨系田更那人が目もあやをせ
新誠懐

首塚

そ塚の中にも有是討死所のそ
とるこの説司いごと〜そゆ東さ
そ塚の中にも有是討死所のそ
とるこの説司いごと〜そゆ東さ



財山橋圖會

卷二

梁田陳

梁田主膳正基安八勝ちが一放りり市山乃
 林兼小備へり市山小高系款と交へあはれを
 擣く一戦の目俄小病死に男となり娘二人
 あり婦と八重幡と云て十有九女妹と小伴と
 とつて十六女改めお婦女なりしに劉小一
 叔母より又基母古稀近きに葉る後
 けお陳の跡と追ていひなよ来る又死に
 ち遺骸と困み送り又梁を離れあつた父の
 ことと後へ姉妹い石とちか小伴りの勇がまも

古と美を一戦破る後本國へ川入後おが妻
 女おと去り死に婦お姉妹受けり世の俗を
 この事ありいともありやあるは法

大谷川

越前白富の南面に河川行市山の北
 面の西あり川と中流も五七
 川中八歩ハ山石あり溪流ありと
 裂れつさひ極にいて白布をぶく
 晒がこころふらめなりくそめ来ハ影向の湖
 入り流るるの谷川ふすめらうとあり

めあをぶらゝ突ふしつこのりの突うとに似にたり
 去人玄ちんまくとまようし味あじ入いりり
 ともわをハか合あ

湖賤ヶ嶽圖會卷之二

